

「子ども食堂」と子どもの育ち

2015年度総会共同企画として子どもの貧困問題についてのシンポジウムを開催して以来、2016年度には「子どもの貧困対策をされに進めよう」と具体的な取り組みについて話し合いました。今年度総会に際してもこれまで同様に群馬子どもの権利委員会、教育ネットワークぐんまとの共同で開催し、全国にひろがりつつある子どもの食の支援「子ども食堂」について語り合い、支援の意義や展望について考えることにしました。すでに県内で実施している団体の3者からそれぞれの活動内容を報告していただきました。

◆あかるい未来ネット（館林市）

菊池真弓さん



立ち上げたのは平成27年3月です。貧困問題の分科会で館林の貧困の状況をフードバンクの方から伺い、何か始めなければと感じた人たちが集まって立ち上げました。

最初、無料学習支援からスタートしましたが、必要としている子どもたちとなかなか繋がれず、誰でも来ることが出来る子ども食堂を始めることとなりました。場所を探し、手書きでポスターやチラシを作り、その年の12月に公民館で1回目をスタートしました。一人でも多くの方に来てほしい、知ってもらいたいと、市役所や公民館、児童館や学童へチラシを置いてもらい、子ども食堂の場所となっている西公民館周辺地区の区長さんに直接お願いして、回覧板でまわしてもらいました。今では公民館だよりに掲載してもらえるようになり、回覧板を回しています。

平成27年12月から大体月1回のペースで子ども食堂を開いています。6月で第16回目を迎えました。子どもは無料、大人は200円を頂いています。ボランティアスタッフも含めて40名くらいでのスタートでしたが、最近では90名を超える方が食べに来ています。

当初の課題は、支援を必要としている子どもたちとどうやって繋がっていくか、ということでした。今もいろいろなかたちで広報をしていますが繋がっているかどうかわかりません。



資料にもありますが、シングルマザーやシングルファーザーは、パートの仕事を掛け持ちしていて、家にいないことが多く、その子どもは学校で躓くと居場所がなくなってしまう。寄り添う大人がいない、生きていくうえで必要な様々な知識を教えてくれる大人がいない、家庭で勉強を見てくれる人がいないから勉強の習慣が身につかない。こうして大きくなっても生活の苦しい状況から抜け出せず、世代を越えて続く貧困の連鎖に陥ってしまいます。私たちが目指しているのは、子どもたちに、自分にも寄り添ってくれる大人がいるんだ、と思ってくれるようになることです。子ども食堂が地域の子どもの子育ての中で疲れたお母さんが気楽に集まれる場所になれば、と思っています。

あかるい未来ネットは、赤い羽根共同募金や社会福祉協議会からの助成金と個人の方からの寄付金でまかっています。食材はフードバンク北関東さんや農家の方からもいただいています。

◆ひだまり子ども食堂

今村井子さん

地元松井田町のNPO法人Annaka ひだまりマルシェは地域づくりや子育て支援活動をしています。3年前からファミリーサポートセンターという子育て支援の事業

を始めました。厚生労働省が20数年前から子育て支援の事業として全国に広めた活動です。始めてみたところ、いろんなママたちの相談を受けるようになりました。子育てに不安があるとか、ママ友だちとう



まくやっっていけないとか、ママ友いじめのことや、小学生のお子さんがいじめで学校に行けなくなってしまったとか。そして生活がかなり困窮されているご家族にたくさん出会うようになりました。

そんな時、東京で子ども食堂という取り組みがスタートし、それがすごく広がっているということを知りました。そこで昨年1月に東京の子ども食堂サミットに参加して立ち上げの方法などを聞いてきました。立ち上げの方法は地域によって様々でしたが、ひだまりで出来ないかと思って始めました。

始めるときには、私の中では子ども食堂はとてもいい活動だと思って準備をしていたのですが、市議会事務局にチラシを配って欲しいとお願いしたところ、市議員から「お知らせというのならわかるけれど、協力とはなんだ」みたいな反発がありました。また安中市教育委員会に電話したんですが、教育長から「子どもの貧困は福祉だから教育とは関係ない」というようなお話がありました。子ども食堂自体が知られていないとか、市民が何かをするということが改めてとても大変なことなんだなと思知らされました。

それでもなんとか今月で1年を迎えます。1年間やってきて、本当に地域や全国の方がたから、卵が届いたり、すだちが届いたり、おコメが届いたり、本当にたくさんの支援を頂いて、実際1年間続けてきたことに、本とうにすごいことだなと、やりながら思いました。こんなに、全国に、地域に、なんとか子どもを助けたいと思っている大人たちがいっぱいいるということが、すごく大きな希望だということが感じています。

◆高崎子ども食堂

矢沼裕子さん

高崎子ども食堂は、一般食堂として大人500円、子ども300円頂いて、どなたでも来て食べていただけるようにしています。これははっきり言って資金稼

ぎをさせていただいています。皆さんが500円、お子さんの分300円お支払いいただいたお金で、ちょっとご飯を食べるのが苦しい方に食事を提供させていただいています。おコメ、野菜、あとお肉が寄付をさせていただいております。それプラス皆さんからいただけるお金、あるいは、寄付で調味料等もいただけるのですが、寄付と一般食堂の売り上げで営業させていただいています。

一般の食堂は月曜と金曜、それと配達を火・木・金でさせていただいていますので、一週間のうちで金曜日がいちばん忙しい日になります。

パスポートというのを買ってもらっていて、これは、お子さんが1カ月500円で、営業のある日は何回食べていただいても大丈夫というもので始めたのですけれども、今では、パスポートに15の枠が作ってあります。15回を500円で召し上がっていただいています。どうしても「タダでどうぞとは言えません」。たとえ幾らかでも支払って食べにきているという気持ちを持って来ていただきたいというのが私たちの気持ちだったのです。それから、今、仕事がないという方も、今までの中でいらっしゃいまして、そういう場合ははじめての給料まではどうぞタダで来て下さい。そのかわりお給料を貰ったら、絶対パスポート買って下さいねというふうをお願いして、かたくなのようですけど、どうでもタダというのはしていない状態です。

昨日のメニューは、あさりの煮物のおかず、これがメインになっていて、大根と豚肉の炒り煮、ニンジンとエリンギの炒め物、キャベツとタマネギの味噌汁、それに、昨日はピワを頂きましたので、デザートにピワをお出ししました。

去年の8月から2ヶ月に1回ぐらいおおきなイベントを開かせていただいています、お月見会、お花見会など3回。8月19日の日曜日には大家さんであるリホームアカデミーさんと一緒に納涼会というものを企画しております、流しそうめんとバーベキュー大会をやります。よろしかったら井野町までお運びいただきたいと思います。

《文責：倉林 順一》

